

玉村洋平

弦楽セレナーデ 作品2(2010、オリジナル版初演)
ヴィオラ協奏曲「シルエット・オブ・プレーヤー」作品12(2017、世界初演)

ベンジャミン・ブリテン

「ヴィオラと弦楽合奏のための『テクリメーダウランド歌曲の投影』
作品48a(1950/1976)

《上記2曲ヴィオラ独奏 小峰航一》

吉松隆

交響曲第6番「鳥と天使たち」作品113(2013)

MATSUMURA Hideaki
Conductor

「わが街、わが協奏曲、そして…」

The World of Yohei TAMAMURA vol. 3

TAMAMURA Yohei
Composer

KOMINE Koichi
Solo Viola

(c) Ruka

2018

9/12

水

19:00 Start
(18:00 open)

豊中市立文化芸術センター大ホール
(阪急宝塚線「曾根」駅より東へ約300メートル徒歩約5分)

チケット

SS 席 4,000 円

S 席 3,500 円

A 席 3,000 円

税込。全指定席。
会場は就学児童よりご入場いただけます。

親子室のご利用は事前にご予約ください。

チケットお問合せ

Confetti* (カンフェティ)

<http://confetti-web.com>

F 0120-240-540 (平日10-18時)

カンフェティのHP内→[ヒビキミュージック]検索
購入でもらえるカンフェティポイントは、次回公演や他公演でご利用いただけます。



指揮
ヴィオラ独奏
客演コンサートマスター

管弦楽

松村秀明
小峰航一
谷本華子
ヒビキミュージックオーケストラ

後援 豊中市、東亞大学大学院
(一社)日本弦楽指導者協会
主催 タマムラブラザーズ合同会社
マネジメント ヒビキミュージック06-6363-3060

「2018年9月12日のこと」

14才のとき、モーツアルトの交響曲に憧れて作曲家になりたいと志してから、早いもので四半世紀が経ちました。今思えば当然のことですが、美しい曲を生み出すというのはそんな簡単なものではなく、先の見えない私の修業時代は30才を過ぎても続きました。その後、色々なご縁を得てコンサートデビューを果たしたのは2014年12月、実に私は36才になっていました。あれから、素晴らしい演奏家の皆さんに自作を奏でてもらうという、「一生に一回だけでいいからどうか!」と幾度となく文字通り夢にまで見たことは数多く現実となりました。

諦めなくてよかった…今の私の切なる本心です。

そんな私に残された究極の悲願はむろん「オーケストラ音楽の発表」です。その機会が40才を目前にして巡っていました。新作は「ヴィオラ協奏曲」。日本人では別宮貞雄(1922-2012)先生以来かな?というマイナージャンルへの挑戦ですが、小峰航一さんという当代屈指のヴィオリリストを得て、筆は順調に進んできました。そしてトリーは「この方しかいらっしゃらない!」人気作曲家・吉松隆先生の交響曲第6番です。なぜ吉松先生の作品かといいますと、私がクラシック系の作曲を続けている理由として、2000年に吉松隆先生の音楽を知ったことが極めて大きいからです。今に至るまで現代の楽壇は無調の作品が主流を占めており、メロディーやハーモニーのある音楽は相手にしてもらえない。私自身も「映画音楽をやりたいし、それしかないな」と思っていた矢先でした。ですので、交響曲や協奏曲といったクラシックスタイルに寄り添いつつ、極めて美しく現代的口マンをたたえた吉松先生の音楽は私にとってまさしく衝撃的なものでした。それから「こんな音楽を私も作りたい!」と吉松作品のCDを聴きまくり、耳コピしてピアノで弾いてみたり(当時は出版譜が少なかったのです)、どういう生き様をすればこうなれるのかと年譜を調べたり絶版の著書を図書館へ借りに行ったり、気がつけば私は完全な「吉松派」となっていました。「直接習ってはいないが吉松先生は私の心の師匠だと勝手に思っている」と公言する私には批判もよせられました。そんな私に「問題ない。光栄である」という吉松先生からのお言葉をマネージャーを通じ頂戴したのは2度目の自作展を開いた翌日の2016年12月8日、この日のこと、嬉しくて泣いていたこと、私は忘れることができません。そんな私がオーケストラ公演を行うにあたって、一生に一回かもしれない機会であり吉松先生還暦の境地たるこの傑作を再演したい、もうこれしかないと考えました。どうか多くの方にこの日、我が新作とともに聴き届けていただきたいと願っています。(作曲家 玉村洋平)

玉村洋平(作曲家) TAMAMURA Yohei, Composer

大阪府豊中市生まれ。京都大学法学部卒業。東亜大学大学院法学専攻修了。大学在学中よりピアノ、和声、作曲の指導を受け、2000年頃よりクラシック系作品の作曲を始める。2010年頃より「ポップな語法をクラシック形式で展開する」をコンセプトに作品制作を行うようになり、2014年12月、「弦楽四重奏のためのメヌエット・フロム・『ビー・イー・エー』op.1a」にてデビュー。2015年8月、ファーストアルバム "The World of Yohei TAMAMURA" をリリース。発売記念演奏会を開催。2016年12月、豊中市立文化芸術センター小ホールにて自作展を開催。2017年4月、日本センチュリー交響楽団首席チェロ奏者・北口大輔氏のリサイタルにて「チェロ・ソナタ『ポートレート・オブ・プレイヤー』op.10」初演。作品は他にピアノ三重奏のための「クリスタル三部作」、ヴァイオリン・ソナタ「スプリング・シーンズ」op.5など。



「わが街、わが協奏曲、そして…」

The World of Yohei TAMAMURA vol. 3



**小峰航一(ヴィオラ独奏)
KOMINE Koichi, Solo Viola**

6歳よりヴァイオリンを宮澤健一氏に師事、11歳でヴィオラに転向し東京藝術大学附属高校、同大を経てパリ国立高等音楽院を最高位の成績で卒業。ヴィオラを菅沼準二、ブルーノ・パスキエの各氏に師事。日本演奏連盟主催のデビューリサイタルを東京文化会館にて開催し音楽現代等各紙で好評を得る。これまでにソリストとして広上淳一指揮京都市交響楽団と共に演、また別府アルゲリッチ音楽祭にてマルタ・アルゲリッチ女史と共に演する。セイジ・オザワ松本フェスティバル、ヴィオラ・スペース、リサイタル・ノヴァ等に

出演。パリ管弦楽団アカデミー生、札幌交響楽団首席奏者を経て現在京都市交響楽団首席奏者。紀尾井ホール室内管弦楽団、関西弦楽四重奏団、京都ラビッシュアンサンブル、トリオ・ダマーズ各メンバー、京都市立芸術大学非常勤講師。

**松村秀明(指揮)
MATSUMURA Hideaki,
Conductor**



慶應義塾大学法学部卒業。大学在学中より洗足学園音楽大学附属指揮研究所にて学ぶ。これまでに指揮を秋山和慶、河地良智、増井信貴、湯浅勇治の各氏に師事。2006~2008年「アフィニス夏の音楽祭」に指揮研究員として参加、2010年度紀尾井シンフォニエッタ東京で研鑽を積む。第11回アントニオ・ペドロッティ国際指揮者コンクールで第3位入賞。これまで大阪交響楽団、神奈川フィル、関西フィル、九州交響楽団、京都市交響楽団、群馬交響楽団、仙台フィル、東京交響楽団、東京都交響楽団、東京フィル、名古屋フィル、広島交響楽団、山形交響楽団、読売日本交響楽団等を指揮。2012年にはイタリアのボルツァーノ=トレント・ハイドン管弦楽団に招かれて3公演を指揮、大好評を博す。